

令和7年度和歌山県文化奨励賞

こ て ら か な 小 寺 香 奈

住 所 和歌山県和歌山市
出 身 地 大阪府門真市
生 年 昭和52年

◎ 業績及び経歴

昭和52年大阪府門真市に生まれる。12歳でユーフォニアムと出会い、高校一年生で将来はプロの演奏家として活動することを決意する。東京藝術大学音楽学部器楽科を経て、埼玉県警察音楽隊でユーフォニアム奏者として勤務した後、同大学大学院音楽研究科修士課程（音楽文化学専攻）を修了。これまでに、ユーフォニアムを稲川榮一氏、外園祥一郎氏、三宅孝典氏に師事する。東京藝術大学、上野学園大学を始めとする複数の大学で研究員や教員として勤務。和歌山大学教育学部では特任准教授、講師を経て、平成25年から准教授を務める。平成25年から平成26年にかけて、同大学教職員長期海外派遣により、ドイツのケルンにおいて、アンサンブル・ムジークファブリークやケルン音楽舞踊大学で研鑽を積む。現在は、国内各地のオーケストラや吹奏楽団への客演奏者として、またソロや室内楽では現代音楽の分野でも積極的に活動している。

平成26年からリサイタルシリーズ「ディスカヴァリー・ユーフォニアム」を開始し、同時代作曲家との協働により、ユーフォニアムのレパートリー開拓に取り組んできた。平成28年には、委嘱作品等を集めたアルバム「ディスカヴァリー・ユーフォニアム」を発表し、音楽専門誌等で高く評価される。県内の活動としては、令和7年4月に和歌山市で開いたリサイタルでは、事前に地元の小学生を対象に音楽と美術を取り入れたワークショップを実施し、アーティストとこどもが共同で創り出した音や創作物を新作に組み込み、参加児童と共に本番当日のステージ上で初演するという新しい試みに挑戦した。また、田辺市立美術館、和歌山県立近代美術館における、展覧会や美術作品と現代音楽作品のコラボレーションによるコンサートは、分野横断的な新しい取り組みとして注目された。教育的な活動としては、地域のこどもから大人までを対象とする「わかやま金管楽器練習会」を定期開催するなど、本県の文化振興に大きく貢献している。

高度な演奏技術を持ち、ユーフォニアムの新しい表現と可能性に果敢に挑戦する氏は、今後より一層の活躍が期待される。

■ 現 在

- ・ユーフォニアム奏者
- ・大阪コンサートブラス テナーホーン奏者
- ・和歌山大学教育学部准教授

◆ 主な表彰歴等

- 令和5年 公益財団法人大桑教育文化振興
財団 大桑文化奨励賞
令和6年 和歌山市文化表彰 文化奨励賞